

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

経営戦略研究科後期課程	
<b>大項目</b>	<b>6 教育内容・方法・成果 (研究科)</b>
<b>中項目</b>	<b>6.2 教育課程・教育内容</b>
<b>小項目</b>	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
<b>要素</b>	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) - コースワークとリサーチワークのバランス (院)
<b>小項目</b>	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
<b>要素</b>	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) - 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) - 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 授業科目の見直し(内部評価)や改善方法の検討を行う	→研究科所属教員による、理論と実務の融合に関する教育課程内容に関する意見交換会の実施回数	B	B			
2. 教育内容の詳細について、内部評価のための会合を開催する、また、シラバス等の詳細を教員間で共有する	→FDのための意見交換開催回数	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 博士後期課程の学生は、研究歴、研究蓄積があり、それぞれに固有の研究テーマをもち、それに従って研究を進めているので、全学生共通のカリキュラムなどを設定するのは必ずしも適切ではないと考えられる。したがって、各学生に個別に対応した研究指導方針、教育課程を編成している。ただし、博士論文研究に必要な学問分野で、当該学生には学習が不足してきくと思われる分野については、指導教員だけではなく、指導補助教員、さらに研究科所属の教員全体が支援する教育体制を整えている。その意味で、博士論文に効率的に結実する教育課程を編成していると考えている。
	小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 学生のニーズは理論的専門性に加え実務上の知識獲得もあり、指導教員と補助教員が協力して指導することになっている。研究指導教員と指導補助教員はそれぞれの学問分野の指導の役割を分担するなどして、学生にとって効果的な教育内容を提供している。
	その他	

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合  
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合  
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	在学学生は、論文公刊、学会発表など、着実に成果を挙げているので、効果は上がっていると考えている。また、IBAでは多くの科目が提供されているので、博士課程の学生も、知識が不足している分野について、IBAの授業科目受講でこれを補うことが可能となっている。
☆ 小項目6.2.2	2011年4月から、博士課程の教育に関わる教員数が増加したので、さらに多様化した教育内容を提供できることになった。
その他	

↓

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆ 小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
☆ 小項目6.2.2	社会人学生が多いため、研究指導教員以外の教員に研究上のアドバイスを受ける機会が多くないように見受けられる。
その他	

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆ 小項目6.2.2	正規の科目受講以外でも、学生が多くの教員と接触できる機会を増やす工夫をはかりたい。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### <評価専門委員会の評価>

##### 【学外委員】

○記述が具体的でわかりやすく、評価できます。

○小項目6.2.1の「現状の説明」の記述にある共通カリキュラムと個別指導との兼ね合いについては、教員の負担等も考慮しつつ検討していくことが望まれます。

##### 【学内委員】

○現状の説明6.2.1などからは、学生の性格の特徴、研究活動の特性などから、授業科目の提供や教育課程の編成などにおいて、一般の大学(院)とは異なるスタイルが求められることは理解できます。

○「効果が上がっている事項」の中の小項目6.2.1について、「着実に成果を挙げている」とありますが、具体的な根拠を明示することが求められます。

○昨年度の学内第三者評価のコメントにも対応されたように、学生による授業評価アンケート結果やFD委員会での評価など、説得性のある根拠を明示して現状説明されることが効果的だと考えます。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

##### ○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・これまでの方針は共通カリキュラムより個別指導に重点を置いたものであるが、当研究科の学生には実務から理論まで多方面の知識が必要なこともあり共通カリキュラムのメリットも小さくない。まさに教員負担が過重にならないよう配慮しつつ検討を進める。

★ 在学生の学会発表や論文作成は増加しているが、指導教員は別にして教員全体でその情報を共有するに至っていない。教員全体で指導できるシステムの強化を図っていく。

・学生アンケートを実施しており、教員の指導面を中心に高い評価を得ている。